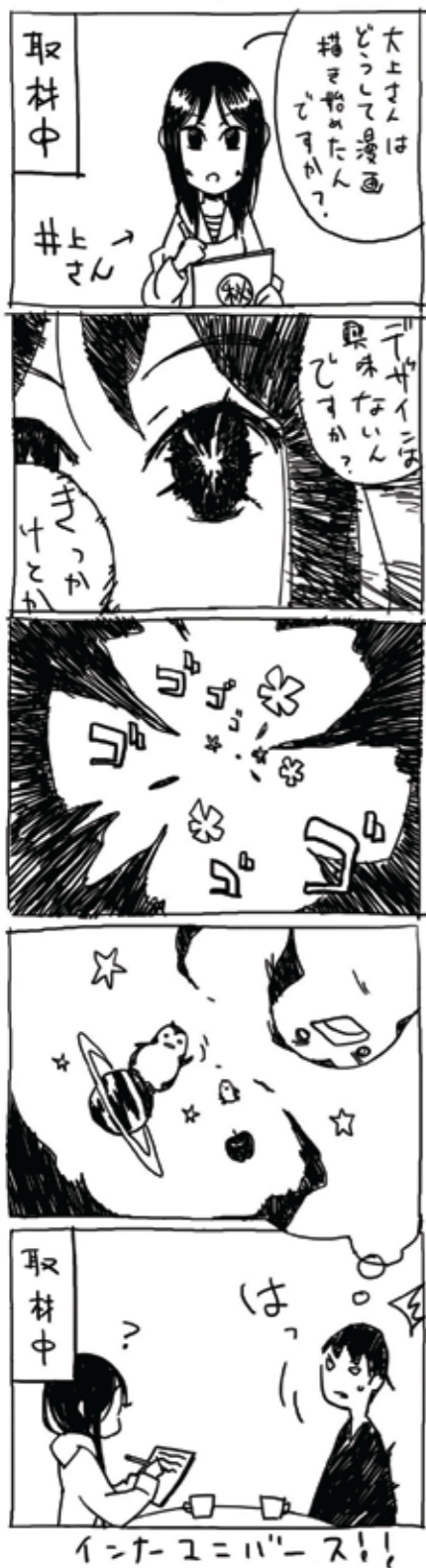




● 5コマ漫画 (インタビュー時作成)



伝えるために

漫画の中には、自分が本当に伝えたいことが一つでも100%を超えたところに入っていればいいという。伝えたいことがあるならばそれを一言で言えば済む。しかしそれをしないのは、伝えたい単純な言葉を新しいやり方、高い技術でより美しく表現することに意味があると考えているからである。

漫画の制作は、頭の中で構想しているときが一番楽しいそうだ。絵を綺麗に仕上げていることも楽しいが、実際に漫画として描くことは苦手らしい。本当に描きたいことは1/10程度で、その他は何でもない繋ぎを描かなければならず、それが苦行なのだから。

漫画は作品としての体裁が整っていることが完成の条件である。だから歌やスポーツと違ってすぐに相手の反応が返ってくるわけではなく、制作するとき・完成するとき・伝わるまでの時間差がある。だからこそ相手に伝わるまでモチベーションを維持できるかが大事なのである。大上さんは「自分

の作品を見てくれる人や楽しんでくれる人がいないと作品は作れないんだ」と話す。

「真面目と真剣は違うと思うんだ。自分は真面目な内容を描くのは嫌いだけど、漫画を描くときは真剣に取り組んでる。今の世の中の人たちは真面目すぎる。だからそんな人たちに自分の漫画を読んでもらいたい。今後はそれが目標かな。」大上さんの生活は春から一変する。それでも漫画は描き続けていきたいそうだ。今までは曖昧なまま描き続けてきた漫画だが、今後は漫画の描く意味を見つけていきたいという。

「結局5コマになっちゃった」と出来上がった4コマ改め5コマ漫画を見せてもらった。卒業制作の漫画の番外編かと思いきや、私を描いてくださったようだ。「この5コマ漫画で何が言いたかったっていうとね、井上さんって、黒目大きいよね。」

こうして取材は終始和やかに行われ、終了したのであった。

● 卒業制作「モナさんと楽しい美術」より



特集2 つくばアートフィールド

テキスタイルアートの表現 額から飛び出した独創的な世界

Artist:

板垣 あかり
ITAGAKI Acari

筑波大学大学院人間総合科学研究科
博士前期課程芸術専攻洋画領域2年

Writer:

川村 晃子
KAWAMURA Akiko

科目等履修生

《poetree》という作品は、2つの木が対になった作品である。この作品を見て、細かな描写と少ない色彩の中に、かわいさと不思議さの両方を感じないだろうか。この作品を制作したのは、大学院2年の板垣あかりさんである。シルクスクリーンという版画の技法で作られており、布にプリントされている。作品の中の木には、彼女の家族や動物が描かれていて、くらげと足の生えた蝶々が額から飛び出している。また、自然のあたたかみを持つ綿布本来の生成り地を用いるところも彼女の特徴である。卒業制作でもあるこの作品を大学生活の集大成として、家族や自分の関わったもの全てへの感謝を込めて、自分自身の成長を表現したそうだ。この作品に惹かれて、今回インタビューをお願いした。

版画との出会い

大学に進学した当初、板垣さんは美術教師を目指していた。教師である父親の影響もあり、具体的に美術と仕事が結びつくものとして美術教師を考えていたそうだ。高校の時には、日本画、彫刻、デザインなど一通りのジャンルを試してみたが、どのような表現方法が自分に向いているか決められずにいた。彼女は大学を受験する際に洋画コースを選択するが、入学してからも洋画で良いのかという不安定な気持ちは続いたそうだ。しかし、学群2年生の時に履修した版画の授業が大きな転機となる。



● 《poetree》(2010)